

「中学生による地域活動及び公民館事業への参画について(答申)」概要版



諮問内容

- ・地域活動や公民館の事業に、中学生の姿が見られない現状・原因・課題を分析する。
- ・中学生が地域活動・公民館の事業に参画するための方策と提言について検討する。

調査研究1：中学生を取り巻く地域の実態

◇盛んに行われている自治会活動

→「清掃・花植え・リサイクルなど環境美化活動」や「夏祭り・どんど焼きなど祭り・伝統芸能の継承」を約8割の自治会で実施。

◇中学生の姿がよく見られる自治会活動

→「清掃・花植え・リサイクルなど環境美化活動」や、「文化祭・体育祭など芸術文化・スポーツ振興活動」(約2割の自治会)。

◇盛んに行われている単位子ども会育成会活動

→スポーツ・リクリエーション活動を、約9割の育成会で実施。

◇単位子ども会育成会の活動内容の決定者

→9割以上の育成会が、大人[育成会役員等]のみで決定

◇単位子ども会育成会の会員構成

→「中学生が会員である」のは、約4割の育成会。

調査研究2：中学生の生活の実態

◇部活動がない放課後及び休日の自由時間

→最も多い回答は、放課後が2～3時間、休日が4時間以上。「平日の自由時間が1時間未満」との回答は2割弱。

◇部活動がない放課後及び休日の過ごし方

→放課後は「家でゆっくり過ごす」が約4割で最も多く、次いで「勉強する」と「学習塾・習い事」が約2割。

→休日は「家でゆっくり過ごす」と「遊ぶ」が約3割で、次いで「外出する(買い物・食事)」が約2割。

◇中学生の部活動加入率

→約9割が部活動に加入。ソフトテニス部が最も多く、次いで吹奏楽部、バスケットボール部。

調査研究3：地域行事への参加及び意識の実態

◇中学生の地域活動への参加意識

→約4割の中学生が「参加している」と回答。

◇中学生が参加したことのある地域活動

→「夏祭り・どんど焼きなど祭り・伝統芸能の継承」や「清掃・花植え・リサイクルなど環境美化活動」に約3割が参加経験。

◇地域行事に「とてもよく参加する」小学生と中学生の比較

→とてもよく参加する子どもは、小学生(約37%)、中学生(約13%)。中学生になると2割以上減少する。

◇地域行事への参加が減少する原因(保護者の意識)

→「勉強や部活動などで忙しい」との回答が約8割。

◇中学生が地域行事へ参加することへの保護者の意識

→「ぜひ積極的に参加させたい」と考える保護者は約2割。

調査研究4：公民館事業への参加及び意識の実態

◇中学生の公民館の利用頻度

→「年に1・2回」が約4割、「利用したことがない」も約4割。

◇中学生の公民館利用の目的

→「活動(練習・廃品回収・会議)」が約3割で最も多く、次いで「交流(遊ぶ・話をする)」「学習(講座・発表)」が約2割。

◇中学生が望む公民館活動

→「友人との交流・居場所」が約6割で最も多く、次いで「宿題・勉強をやるなど学力の向上」が約4割。

◇地域住民による公民館の利用状況

→講座受講者の8割以上が女性かつ60～70歳代。

調査研究5：活性化のためのアイデア

中学生からの意見

◇イベントの開催

・音楽祭、ロックバンドフェスティバルの開催。中学生が運営スタッフ。

◇創作・体験活動

・演劇。よさこい演舞。町のソバルになる巨大模型の制作。

◇ボランティア活動

・年少児や高齢者との交流。

保護者からの意見

◇主に、方法・方針の改善に関する意見

- ・中学生が企画の段階から参加できるようにする(中学生を含めた実行委員会形式)。
- ・大人の考えた企画を押し付けない。
- ・地域の役に立つ喜び、満足感を味わえるようにする。
- ・中学生が小学生のリーダーとして活躍できるようにする。
- ・中学生を子ども会育成会員とし、役員の役割を担わせる。
- ・長期休業中、居場所として公民館を開放する。

◇主に、学校教育との連携・調整に関する意見

- ・まつりへの参加が学校・部活動で禁止されている。学校の理解と協力、教職員の意識の変化が必要不可欠。
- ・参加しやすいように、学校を通じて行事の連絡をする。
- ・学級・部活動・委員会等の単位で地域行事に参加する。

◇主に、参加を促すのは困難とする意見

- ・休日・祝日も部活動が1日中ある。勉強もしなければならぬ。参加を促すのは物理的に困難。

【既存の組織・行事へのはたらきかけ】

提言1：既存の組織・行事を生かし、つながり・絆づくりに取り組もう

- ◇方策1 中学生を含めた世代間交流の促進を各組織へはたらきかける。
- ◇方策2 中学生を受け入れてもらえる体制づくりを各組織へはたらきかける。
- ◇方策3 各種行事で中学生が運営スタッフとして活躍できる場面を設定する。
- ◇方策4 各組織が集い、情報交換や意見交換ができる機会を設定する。

【地域の大人へのはたらきかけ（中学生を受け入れる地域の体制づくり）】

提言2：中学生を信じてまかせる姿勢の大切さを大人全体で共有しよう

【町内各組織の大人に対するはたらきかけ】

- ◇方策5 地域行事を行うときの実行委員会に、中学生をメンバーとして加える。
- ◇方策6 大人だけで地域活動の内容を決めず、中学生の意見に耳を傾ける。
- ◇方策7 「ありがとう」「君のおかげだよ」と中学生に温かなメッセージを送る。
- ◇方策8 中学生の失敗に寛容なかかわり方をする。
- ◇方策9 中学生に、小学生に対するリーダー（先輩）としての役割を与える。
- ◇方策10 地域行事の予定や情報を学校・家庭に連絡し、共有する。
- ◇方策11 「地域社会＝もうひとつの居場所」という認識を深める。
- ◇方策12 何より大人自身が地域活動を楽しむ。

【中学生の保護者に対するはたらきかけ】

- ◇方策13 積極的に我が子を地域活動に送り出す。
- ◇方策14 中学生は壬生町の次世代の担い手である、という認識を深める。
- ◇方策15 保護者自身、地域行事に積極的に参加する。

【教職員に対するはたらきかけ】

- ◇方策16 中学生の活動が勉強や部活動ばかりに偏らないよう、地域との協働を深める。
- ◇方策17 地域行事に、部活動・学級・委員会等の単位で参加する。
- ◇方策18 地域行事での中学生の活躍を、学校・学級内で承認し合えるようにする。

【行政（生涯学習課）に対するはたらきかけ】

- ◇方策19 中学生の活動実績を記録し評価するポイントカードを作成し周知する。
- ◇方策20 各組織と学校がつながれるよう、コーディネート機能を充実させる。

【中学生へのはたらきかけ（次世代の地域の担い手の育成）】

提言3：地域活動の魅力中学生に発信し、興味関心を高めていこう

- ◇方策21 地域行事の予定や実行委員の募集に関する情報を提供する。
- ◇方策22 部活動のない曜日・時間を活用して地域貢献活動等に励めるよう促す。
- ◇方策23 地域活動に興味・関心のある生徒を募り、実行委員会を組織する。
- ◇方策24 直接声をかけ、地域社会は中学生の力を必要としていることを伝える。

【公民館の機能を高めるためのはたらきかけ】

提言4：学びの場、活動・交流の場としての公民館機能を充実させていこう

- ◇方策25 減免制度の充実や、祝日を閉館日とするために、公民館使用条例を改正する。
- ◇方策26 中学生を対象とした講座を、中学生の興味・関心に基づいて開設する。
- ◇方策27 公民館事業を支援する「運営補助ボランティア」の中学生を募る。
- ◇方策28 居場所機能（交流コーナー）を充実させる。



総合産業祭りにて、地域の大人とともによさこいソーランを踊る中学生



蘭学通りまつり会場にてペットボトル回収に励む中学生

「中学生による地域活動及び公民館事業への参画について(答申)」概要版

- 発行者 平成23年度壬生町社会教育委員の会議
- 発行日 平成24年2月8日
- 問合せ先 壬生町教育委員会事務局生涯学習課社会教育係
電話 0282-81-1873